星座の日本學名に對する私見を讀みて

草　場　　修

總ての學術語を完全に統一すると云ふことは，誠に困難なことであつて，自分は仕事の關係上，星座名改廢統一と云ふことになると，人並以上に關心を持たざるを得ない．本紙八月號に表題の如き西森氏の記事を拜見して感じたことは，氏の御主旨には双手を擧げて贊成するに吝でないが，星座名個々に對する意見は，二，三，を除けば，遺憾乍ら氏の御高見に贊同し得ず．以下大體の反對意見を例記して見たいと思ふ．

先づ前提として，西森氏は“日本語も漸次字で書く言葉より口で話す言葉に變つて行く”から，此の時代の波に應じねばならぬと云ふ．誠に御說の通りであらうが，一體日本の國字は昔のことは兎に角，今，現に片假名と平假名に使ひ分けがあつて，片假名使用の場合は，發音通り表はせる文字も，平假名使用の場合はそうはゆかない．

單に假名書と云つても，片假名“男性文字”と平假名“女性文字”をゴチヤゴチヤにされての意見は迷惑である．そして氏の御高見にも似合ず，全く是れを無視して居る？のは意外であつた．

是れを前提として星座名一ツ一ツを吟味して見たい．

“はいきき”……眞空ポンプや空氣ポンプを眞空排氣器，空氣排氣器等と呼ばねばならぬ理由はない．ポンプは立派な現代日本語である．わざわざ變へる必要はあるまい．ポンプを，“はいきき”ならコツプは，“さかずき”か？“うしかい”……御說の通り“牧夫”と書けば二樣に讀める．自身も度々質問を受けた經驗があるので，左樣な時は飽迄，“まきを”で押して來た．是れに就ては天界161號406頁の山本博士の“天文用語に關する私見と主張(3)”を一讀せられたい．今後機會ある如に“まきを”を假名書で徹底させればよからう．“牧夫”に手をつけて何故“畫架”に手をつけなかつたか？

“ジラフ”……まつたくサタの限りである．西森氏は動物園で暗示を得られたのだ相だが，“ジラフ”と“キリン”とどつちが日本人にピンと來るだらう

か？　氏の主張に少しく矛盾する點がある樣に思はれる．わざわざ變へるための理由を見つけに動物園まで御出張された樣なもの，天文遊戯或は“文字の遊戯”と見られはせぬだらうか？“カシオペ”……天界157號249頁參照“ヤ”を略するのには贊成し兼ねる．然らば何故アンドロメダの“ダ”を略しなかつたのか？“ケンタウル„“ケフエ”……天界157號250頁參照．自分はセンタウル，セフエウス，シグヌス等と呼んでゐる．

“かみのけ”……まさか“かみ”を紙星座等と早合點する程頭の良い人？は居まいから“かみ”でよからう．

“じうじ”……自分がキリスト教信者だから十字架座を主張するのではないが，從來通り‘,じうじか”として宗教的のものが一つ位いあつてもよからう．單に“十字”では“北十字”“白鳥座”と混同されぬとも限らぬ“おゝいぬ”“はくちよう”“おゝかみ”“ほうをう”“おゝくま”……西森氏の假名使ひは無茶苦茶である．例へば大犬の場合片假名で書けば，“オゝイヌ”でも平假名を使用すれば“おほいぬ”と書かねばならぬ．何を苦しんで國字の仕用樣式を變へねばならぬか．卽ち，“おほいぬ”“はくてう”“おほかみ”“ほうわう”“おほくま”で變へる必要はない．“りゆう”……是れには贊成する“龍”は“りよう”より“りゆう”の方が良いと思ふ．“ヘルクル”賢作じやない．星座發明當時の歷史も考慮せねばならぬ．語路も惡く，英勇ヘルクレスの勇壯味がなくなり，採用の理由もコヂツケの感がある．それほど變へたければ“東鄕”とか“乃木”とかに變へてはどうですか？　是れなら文句なしに贊成する．“うみへび”……是れは贊成する．“インドじん”遂に片假名と平假名とゴチヤゴチヤが飛出した．西森氏も假名の使ひ分けは認めてゐるのだ．次に INDUS の歷史は御存知です？　此の星座はコロンブスのアメリカ大陸發見の記念であつて，印度人ではなく實際彼等の見たのはアメリカ，インデアンなのだから，從來通り“インデヤン”で良い．今日インデヤンが何か知らぬ日本人は恐らく居まいと思ふ．尙天界161號409頁參照せられたい．“テーブルやま”……是れも兩假名の協力になつてゐるが變へる必要は認められない．むしろ唯一の日本の天文學者の名を冠したことを我々は世界中に誇りたいのである．“ひらやま”“いつかく”理由は略するが贊成する．“はちぶんぎ”“ろくぶんぎ”“はちぶぎ”“ろくぶぎ”

なら判るが，是れはまつたく愚作である．尤も“はちぶぎ”“ろくぶぎ”も贊成し兼ねるが，天界161號411頁參照せられたい．“らしんぎ”……反對である理由は前と同段．以上の結論として，西森氏とは個人的にも面識があり，從來種々御鞭撻願つてゐるのに，誠に御氣の毒ではあるが，贊成は三星座のみで他はすべて反對してゐる譯で恐縮である．

尙御參考までに，支那の天文學名詞に依れば，“へび座”を“巨蛇”としたら“へび”は“長蛇”です？　丁度支那名とは反對を採用する譯で，支那とは同文同種の民族だから，斯樣にせねば日本人の面目が立たぬのかも知れない．“私有の天文學名詞は，中國32年1月初版，上海商務印書館發行”．

追記　自分は京大並びに花山天文臺在籍中は色々の意味で自發的に遠慮して，一切私見は書かず，天界利用を差しひかへる立前を採つてゐましたけれども，今後はその必要もなくなりましたので，機會がありますれば時々愚論を書かせて頂き度いと思ひます．又全く別の事ですが愚作の星圖に就きましても種々の不評は知つてゐます．それに就ても一言，いや云ひ度いことは山程ありましたが，言はぬが花と沈默を守つて來ました．尙又，星圖に關するものに就ても既刊星圖ノルトン，ボン，シュトリギョッツ，其他五種ばかり，アラ探しもしてあり，材料は持てゐますが，只それを書けば他の揚足取りと見られるので遠慮してゐるに過ぎませぬ．愚作の星圖がキタナイと云ふことは僕自身が當初から大いに宣傳してゐることでありまして，是れは最初の豫定が斯樣な印刷法にする爲ではなかつたことに起因します．然し星圖は消耗品でありますからキタナイと云ふ事は星圖の利用價値がなくなると云ふ事にはならない筈です．今度の正誤表には絕對の責任を持つてゐます．

1938年8月7日　　清水下にて

草　場　　修

司馬江漢の天球圖

司馬江漢(1738—1818)は，明和の頃，浮世繪師として名を馳せ，唐畫，洋畫をよくし，畫家として著明である．亦市井の學者，哲人として長崎にも遊學し當時の蘭學に通じ，銅版繪を創製した奇才であつて，寛政7年極彩色の銅版繪の天球圖（バイエルのウラノメトリアを寫したものか？）と，天文書を著述した．此の天球圖は，日本最初の銅版繪として珍らしいもので，最近大阪の會員西森紀久雄氏が入手された．